

健康医療研究会

看護の立場から見た 新型コロナウイルス禍での 注意点 病院へ行く時 家族が感染した時



2020年06月11日

D F 会員の皆様

健康医療研究会
代表世話人
江村 泰一

緊急事態宣言解除から早2週間が経過いたしました。皆様はいかがお過ごしでしょうか？

朝晩の交通機関や、繁華街は徐々に通常の混雑に戻りつつあります。

この解除宣言で当初の緊張感の緩みによる、二次拡大の危惧がさやかれています。

まだまだ、感染リスクが解消されたわけではないようです。

そこで、今回は、長年医療関係でお仕事をされていた植原 早苗会員
(1309) より、

- 1 病院へ行く時
- 2 家族が感染した時

の助言をいただきましたのでご紹介いたします。



植原 早苗会員(1309)

キャリア

国立習志野病院看護師長

国立国際医療センター看護師長

群馬県立がんセンター看護部長

1 病院に行く時の注意

市中及び病院内にもサイレントキャリアの人がいることから院内感染が起こりうる事の認識を持つこと。

1)定期受診

オンライン診療又は電話にて状態報告し指示を受ける。

処方時は医療機関より調剤薬局へFAX依頼する。

薬局で薬を受けとる又は薬局によっては配達してくれる。

2)新型コロナウイルスを疑う際の受診

症状：

発熱(脱水に注意)、咳や呼吸状態の変化、倦怠感、味覚や嗅覚異常などいつもと違うと思ったら。

準備：

日時や状態を詳細にメモしておく。

発症2.3日前から感染力が高い事から、**外出先や接触者をメモ**しておく。

受診方法(区の広報参照)

かかりつけ医がいる場合

かかりつけ医に電話して、診断の結果でPCR検査。

かかりつけ医がない場合

新型コロナ受診相談窓口^①に電話し、必要性があればPCR検査。

窓口へ、**既往症や基礎疾患の有無、内服薬などを症状と共に必ず報告**する。

検査センターに行く際は**マスク装着とsocial distancing**を守る。

2 家族が感染し自宅療養する時の注意

基本は家庭内感染を防ぎ、状態変化に速やかに対応できるので**宿泊療養**。

注意点

病状悪化した時の対応について、必ず事前に確認しておく。

妊婦、介護保険上のサービスを利用している方との同居は要注意。

病状の変化、特に呼吸状態を本人、家族は観察を密にする。

飛沫感染、接触感染、エアロゾル感染を防ぐ。

本人を孤立させない、不安や不安定な状況を理解し共感して精神的ケアに努める。

環境整備

個室が望ましい

マスク装着して最小限の対応を心がけ、一つの行為の後は必ず手洗いを励行する

換気は2方向を解放する

タオル類は別にしペーパータオル利用する

食事は個室で摂取する

入浴は最後に入る

衣類、食器は家族と一緒に洗ってよい

ごみ類は密閉して捨てる

洗面所、ドアノブなどの共用部分は使用后必ず消毒をする



医療・介護従事者を守る為に

1. 感染しない
2. 感染させない
3. 骨折しない
4. 他の病気にならない

DFメンバーズ・サロン「e-Column」ご投稿のお願い
皆様の意見やほかの人に伝えたい情報があればお寄せください。
2020年05月01日発信『DFメンバーズ・サロン「e-Column」ご投稿のお願い』をご参照ください。

[E-Columnへのリンク](#)